平成30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4572100677		
法人名	社会福祉法人　川水流福祉会		
事業所名	グループホームひえいの郷	ユニット名	B棟
所在地	宮崎県延岡市北方町川水流卯1810番地24		
自己評価作成日	平成30年9月12日	評価結果市町村受理日	平成30年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4572100677-00&PrefCd=45&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成30年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「ゆっくり、一緒に、楽しく」をモットーに、近隣の保育園児との様々なイベントでの交流や、地域交流施設「はなぶさ」での地域の方々との触れ合いを通しての交流を図っている。A棟、B棟の利用者に地域での買い物を楽しんでもらえるように買い物に付き添い、目で心で楽しんでもらっている。行事のなかにドライブを多数組み込んでおり外に出る事により他利用者との会話が多く聞かれ、気分転換を図る事ができている。「行きたいところへ出かけましょう」は本人が希望する場所、又は会いたい人の希望を取り入れ参加していただいている。一人ひとりが毎日生きがいを持って生活できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

全職員で理念を基本に、常に利用者に寄り添うケアに努めている。地域の保育園児との交流も盛んに行われ、地域の商店や地域交流施設「はなぶさ」に出かけるなど、積極的に外出支援に取り組んでいる。また、庭の畑での収穫を利用者と共に行い、食の楽しみに繋げている。月2回の「行きたい所へ出かけましょう」では、利用者一人ひとりの望む場所へ出かけ、気分転換と同時に楽しめるよう支援に取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 B棟 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念であるゆっくり、一緒に、楽しくをモットーにその人らしく生活していただけるような配慮をしている。	「ゆっくり一緒に楽しく」の理念をミーティングや研修で確認しあい、全職員で利用者に寄り添うケアとなるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会や避難訓練等に入居者、職員で参加している。近隣の保育園にも出向いたり、慰問を受け地域との交流を図っている。	月に1回地域交流施設「はなぶさ」での交流をはじめ、地域の保育園の運動会に参加するなど地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流の場に職員と一緒に出向き、地域の方々との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動内容を振り返り報告している。参加者には意見をいただき参考にしている。	会議ではホームの現状や内容報告などが行われ、参加者からアドバイスや意見が貰えるよう取り組んでいる。出された意見が日々の支援に生かされるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議に参加していただいており、普段から情報交換がしやすい関係作りを心がけている。	行政の担当者が運営推進会議に来た時に助言を貰ったり、分からない事があると電話や出向いて直接、指導や助言をもらうなど連携が図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度身体拘束についての勉強会を行っている。職員間で身体拘束ゼロを目指しケアに取り組んでいる。	研修や日々の申し送りなどで、身体拘束ゼロを目指し取り組んでいる。月2回のホーム内研修ではスピーチロックの研修にも取り組み日々のケアに生かされるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員間で常に虐待防止の意識を持ち、園内研修でも勉強会を開催している。利用者の方が安心して生活出来るように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 B棟 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者が入居されている為、常に連携を取りながら利用者の支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書等で説明を行い、不明な点がある時は十分に説明を行い理解していただいている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族からの意見や苦情は、所長、関係者と連携し速やかに対応している。市の担当者から意見をいただく事もある。	家族会の開催が年2回行われており、運営推進会議にも家族の参加がある。またホームでの面会時には意見、要望がないか聞き取れるよう工夫している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日ミーティング、申し送りを行い意見を出してもらっている。又申し送りノートを活用し職員の連携を図っている。	ミーティングや日々の申し送りなどを含め、意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。小さな気付きも共有できるように、支援に生かせるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員旅行や食事会を開催している。向上心を持ち仕事ができるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修を随時行っている。又外部研の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県グループホーム連絡協議会の会員になっている。外部研修で意見交換を行い、質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 B棟 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に傾聴、受容の気持ちで利用者に接している。寄り添いながら本人の不安や心配事を軽減するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を築く為、不安や心配事への対応を速やかに行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を聞きながら自分らしく安心した生活が送れるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年培った経験、知識を教えていただきながら、尊敬の念を持ち信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は本人、家族との時間を大切にしている。本人を支える為、ご家族との信頼関係を密にし、報告、連絡を常に行っている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の店に職員と共に買い物に行ったり、地域交流の場にも出向き、馴染みの方々との関係を大切にしている。	利用者の日頃の会話から地元の山が見たい、姉に会いたいなどの希望に添うよう、職員が同行し馴染みの関係が途切れないよう支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や活動の声掛けを行い、無理じいせずに参加していただいている。お互いに関わり合いを持ち、交流を図りながら信頼関係を築いている。		

自己	外部	項　目	自己評価 B棟 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても本人や家族から相談を受けた場合は、必要に応じて支援を行う。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人にとって何が必要なのかを把握できる様にしている。	日々の支援の関わりの中で、利用者の表情や行動、言葉からどうしたいのかを読み取るように努力している。職員で情報を共有し、意向の把握に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から提供していただいた情報に基づいてその人らしく生活ができる様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化を常に把握し、少しの変化も見流さないように職員間で連携を図っている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、本人、御家族、職員間で、その人らしく生活していただける為の話し合いを行っている。随時アセスメントやモニタリングを繰り返し、介護計画に反映できるように努めている。	担当者を中心に本人や、家族の意向も取り入れ職員全員で意見交換を行い、介護計画に生かされるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全体が細かな変化に気づくよう心がけ、申し送りノートや、ミーティングで報告しケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の状況、希望に即しているかを見つめ直しながら随時柔軟な支援ができる様に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 B棟 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常に支えてくださっている方々や、関係機関と連携を密にしながら支援を行っている。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談し、主治医の確認を行っている。日常の様子、受診に必要な情報をかかりつけ医に報告し連携を図っている。	協力医の週2回の訪問診療があり、かかりつけ医となっている。また他科受診の場合は家族の協力の下支援がされている。家族が同行できない場合は職員が同行しているが、情報は家族と共有し連携を図るよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化が見られる時は家族、介護職、かかりつけ医と連携を密にし適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人、家族、医療関係者と常に連携をし、情報提供をいただきながら、安心、適切に治療が行えるように努めている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時担当者会議等に本人、家族と話し合い意向を確認している。看取りについては事前確認書、同意書を作成し署名や、捺印を共有している。	入居時に説明対応しており、状況の変化には医師の意見も参考に、随時家族や利用者との確認が行われ意思確認書を作成し共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居時「急変時の対応について」に記入していただいている。それに捉われずその時ご家族がどう思っているかを確認している。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内、地域の消防団と共に連携を図り、随時災害時の訓練を行っている。非常時の備蓄もしておりすぐに持ち出せるようにしている。	台風や火事、土砂崩れなど様々な場面を想定し定期的な避難訓練が行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価 B棟 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対して尊敬の気持ちを持ち対応している。園内研修で接遇、マナーの基本を学び、利用者の誇りを傷つけない対応をしている。	接遇研修などを行い、利用者の尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。職員間で気づいた時には改善できるよう意見交換がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の気持ちを自由に発言したり、決定できる雰囲気作りを持ち、常に受容、傾聴を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活をしていただく為、無理強いする事なく自分のペースで生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が自ら着たい服を選んで着ていただいている。2か月に一度馴染みの美容室が来られ散髪していただいている。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を作成し、バランス良い食事を提供している。職員が利用者に提供したい献立を考案し提供している。後片付けは茶碗を重ねたりできる事はしてもらっている。	基本の献立は栄養士が立てているが、職員が考えた1品を加えるなどの工夫をしている。利用者と共におやつを作ることもあり、食事が楽しめるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の食事摂取量を把握し、対応している。好き嫌いのある方に対しては、代替えを準備し対応している。お茶は一人ひとりにボトルを準備し一日の摂取量が把握できるように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケア、義歯のケアを行っている。介助が必要な利用者には、側で付き添い介助を行い、磨き残しがないかの確認も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 B棟 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員がその人の排泄間隔を周知し、早めの声かけを行う事で失敗を少なくできている。拭き残しがある時は介助で対応している。	介護記録や排便チェック表も活用し、利用者の様子から察知し、さりげない声かけや誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促す為、腹部マッサージや繊維の多い食べ物を提供している。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後から入浴を行なっており、本人のペースに合わせて入浴を行っている。声かけを行う時も無理強いせず、本人の気持ちに寄り添っている。	基本は週3回としているが、利用者の希望に合わせた対応が取られている。ホーム内の入浴班の考案でどくだみを使った薬湯風呂などを準備し、利用者が楽しめるよう努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は休息の声かけを行っている。又夜間安眠を心がけ、日中は活動を充実させている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬は職員が申し送りや、担当者会議で把握し、対応している。処方する際は、職員が二人以上で確認して間違いがない様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の生活の中で本人がやりたい事、したい事を見出したり、生活歴を把握しながら無理のない様に取り入れている。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事としてドライブを組み入れて、季節に応じた場所に職員と一緒に出掛けている。又本人が行きたい場所や会いたい人がいないか把握し支援している。	ホーム周辺の散歩や、外気に触れることを目的としたベランダでのお茶会など工夫している。近隣の商店への買い物や、年中行事以外にも行きたい所などを聞き取り、外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価　B棟 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の心配をされる方はお金を預かり、希望する品物等をがあれば、地域の商店に一緒に買い物に出向き、代わりに支払っている。収支報告書は毎月ご家族にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやりとりの仲介をしたり、暑中見舞いや年賀状作成の支援を行っている。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活環興を整え、配慮すると共に季節毎の花を植えたり、飾ったりして家庭的な雰囲気作りを心がけている。	共用空間にはソファはなく、移動式の畳ベットが置かれており多目的に使われている。季節の花や利用者の作品も飾られている。換気や湿度にも配慮がされ利用者が過ごしやすいよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓、畳があり、利用者が思い思いに過ごせるような環境作りをしている。		
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の際の食器や箸は、ご家族に普段から使用している物を持って来ていただき使用している。又居室内は家具の上にご家族の写真を置き安心して生活ができる様に工夫している。	居室には備え付けのたんすとソファがあり、その上に思い出の品や写真が飾られている。趣味の為のテーブルなども持ち込まれ居心地よく過ごせるよう配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内ではその人が何ができるか、どうすれば一番安全かを常に意識し、安心した移動ができる様にベッドの位置等配慮している。		